

風土計

2025・2・13

「みんな、個性の塊。まとまりがないのが逆に楽しい」。盛岡市の杜陵高生らと話す機会があり、学校の様子をいきいきと語る姿が印象的だった▼小中学校で不登校を経験するなど事情を抱えた生徒が少なくないという。理由はそれぞれだが、集団生活の場で周囲に懸命に合わせようとしてつらくなる子も。人と関わることに臆病なまま入学する生徒もいる▼通信制3年の水野花梨さんもそうした一人だった。週1回の登校を基本に自宅学習するスタイルが合い、徐々に気持ちも前向きに。合間に料理をしたり、オートバイの免許を取ったりと、好きなことを見つけた▼生徒会長として校内カフェの運営に携わり、つながりを育んだ。ボランティア活動にも挑戦し、助けを必要とする人の支えになりたいと思う自分にも気付いた。多くの人と出会い、チャンスに恵まれた3年間だ▼迷い悩んで、自分と向き合う年代。「その子の人生が変わる大切な期間を積かっている」と三田正巳校長は語る。一人一人の小さな頑張りにも光を当てようと設けた月間校長賞が生徒の励みにもなっているようだ▼水野さんの成長物語を漫画にしたサブライズ企画で本人を喜ばせた。中学生に見てもらおうと同校ホームページで公開している。つまずいたとしてもまた歩き出せばいい。誰にもある「その時」を応援したい。

※ 岩手日報 2025年2月13日(木)付 この記事は岩手日報の許諾を得て転載しています。

※ 胆江日日 2025年2月5日(水)付 この記事は胆江日日の許諾を得て転載しています。